

「比較構文のいくつかの考察」

田 中 章

Chomsky (1965 : 234, 注36) には次のように書かれている。

「…特に、もし、(41iii)⁴のような文が “I know several lawyers (who are) more successful than Bill” から派生されると考えることは、きわめて妥当と思われるが、“who are” の削除に続く名詞・形容詞倒置によって派生されるとみなされるならば、何とかして次のような事実を説明しなければならない。つまり、“I know a more clever man than Mary” あるいは “I have never seen a heavier book than this rock” は非文法的であるが、これらの文の presumed sources である “I know a man (who is) more clever than Mary” と “I have never seen a book (which is) heavier than this rock” は全く文法的な文であるという事実と “I have never read a more intricate poem than *Tristram Shandy*” は後者が詩であることを含意するが、一方 “I have never read a poem (which is) more intricate than *Tristram Shandy*” は、この見方では、前の文の source と考えられるが、*Tristram Shandy* が詩であることを含意しないなどの事実である。

- (1) John is more clever than Bill. (*Aspects*, p. 178, (34))
- (2) John is more than [# Bill is clever #]clever
- (3) John is a more clever man than Bill. (= *ibid.*, p. 180, (41i))
- (4) John is a man (who is) more clever than Bill.
- (5) I know several more successful lawyers than Bill. (*loc. cit.*, (41iii))
- (6) I know several lawyers (who are) more successful than Bill.

- (7)* I know a more clever man than Mary. . . .
- (8) I know a man (who is) more clever than Mary
- (9)* I have never seen a heavier book than this rock.
- (10) I have never seen a book (which is) heavier than this rock.
- (11)* I have never read a more intricate poem than *Tristram Shandy*.
- (12) I have never read a poem (which is) more intricate than *Tristram Shandy*.²⁾

これらの問題を解くいくつかの方法があるように思われる。最初に、私は(8)の推定される出所(9)が全く非文法的であるが、一方(8)が文法的であるという事実から次のように説明したいと思う。

- (13) 比較文において、形容詞が、例えば、(8)における‘clever’であるが attributive position ではなく‘than’の前の predicative position にある時はその形容詞を含んでいる文は、‘than’の後の NP の性と関係詞のすぐ前の主節の NP の性との間の不一致にもかかわらず文法的である。

(13)を支持する(14)から(16)のような例がある。

(14)a.* I know a more clever woman than Bill.

b. I know a woman (who is) more clever than Bill.

(15)* I know a more clever man than Mary.

(16) I know a man (who is) more clever than Mary.

そして各々(9)と(11)の presumed source である(10)と(12)は全く文法的であるが、一方(9)と(11)は非文法的であるという事実から(17)のように説明することも妥当なように思われる。

- (17) 比較文において、問題となっている形容詞、例えば、(10)における‘heavier’であるが、attributive position ではなく‘than’の前の predicative position にある時は、その形容詞を含んでいる文は、

‘than’ の後の NP の種類と関係詞のすぐ前の NP の種類との間の不一致にもかかわらず文法的である。

(17) を支持する (18) と (19) のような例がある。

(18) *I have never seen a heavier rock than this book.

(19) I have never seen a rock (which is) heavier than this book.

更に、次のような例がある。

(20) *I have never seen a heavier book than John.

(21) I have never seen a book which is heavier than John.

(22) *I have never met a heavier man than this rock.

(23) I have never met a man who is heavier than this rock.

上の例から、(17) を次のように (17') に修正したいと思う。

(17') 比較文において、問題となっている形容詞、例えば、(10) における ‘heavier’ であるが、*attributive position* ではなく、‘than’ の前の *predicative position* にある時は、その形容詞を含んでいる文は、‘than’ の後の NP の種類あるいはカテゴリーの種類⁹⁾ と関係詞のすぐ前の NP のそれらとの間の不一致にもかかわらず文法的である。

(13), (17) と (17') を一つにすると、次のようになる。

(24) 比較文において、問題となっている形容詞が *attributive position* ではなく、‘than’ の前の *predicative position* にある時、その形容詞を含んでいる文は ‘than’ の後の NP の性あるいは種類あるいはカテゴリーの種類と関係詞のすぐ前の NP のそれらとの間の不一致にもかかわらず文法的である。

それから私は上の観察に基づく所見に基づいて条件 (25) を提案したいと思う。

(25) *presumed sources* において、‘than’ のすぐ後の NP の性あるいは種類あるいはカテゴリーの種類は関係詞のすぐ前の NP のそれらと一致しなければならない。(両性を持っている NP の場合は、「一

致」によって決定される関係詞のすぐ前の NP の性に関する素性が表面構造の適格性を決定する際に考慮される。）

条件 (25) によって, (14) (a), (15), (18), (20) と (22) の非文法性を説明できる。⁴⁾

二番目に, Chomsky の素性分析⁵⁾ に従って私は copula と形容詞の削除を考えたい。⁶⁾

(14) から (23) までをもう一度考えてみると, (14) (b) における ‘clever’ の素性であるが, ‘than’ の前の ‘clever’ と Bill の後の ‘clever’ は共に同じ素性 [post-Animate] を持ち, これらの素性は lexical insertion の位置に固有であるので nondistinctness を決定する際に考慮されるが同じ値をもっているので (14) (b) は文法的となる。⁷⁾ 同じことが (16) と (19) についてもあてはまる。(20) と (22) に関連して次のような文がある。

(26) *John is as sad as the book he read yesterday.⁸⁾

Chomsky は二通りの説明を提案している。⁹⁾

最初に, 彼は比較変形を阻止して削除を妨げるのは主文と埋め込まれた文の形容詞 ‘sad’ の素性, 即ち, [post-Animate] と [post-Inanimate] における相違であると述べている。¹⁰⁾

二番目に, 彼は唯一の対案は二つの同音異義的語い項目エントリーが含まれていて, そして, このことがその変形を阻止し, 削除を妨げると述べている。

(26) に関連して, Michaels は (28) が一例である, いくつかの文を提示して二つの説明を提案している。¹¹⁾

(28) *The boy is as sad as the book.

最初に, 彼は「最初の対案は与えられる素性の値における相違が削除操作を阻止した *buxom neighbor* の場合において例示されている選択制限に似ている選択制限を含んでいる」と述べている。そして更に続けて, 「最初の対案を選ぶ際に, 『埋め込まれた文の対応する形容詞を削除するために母型文の形容

詞を用いる』(Chomsky, 1965 : p. 179) 比較変形は、含まれている形容詞は文脈素性を割り当てる規則(規則(1)即ち一致変形を参照)に従って異なって指定されていて、そのため削除操作に関する *nondistinctness* 規約(Chomsky 1965 : 182 を参照)を満たさないので適用されない」(Michaels (1970), p. 99, 1. 11-1. 14, 最後の行から p. 100, 1. 6 まで)と述べている。

しかし彼の最初の説明は誤っているように思われる。というのは、Chomsky は一致変形によって語い形式素の中に導入される素性は *nondistinctness* を決定する際に考慮されず、そして母型文の形容詞と埋め込まれた文の形容詞の素性は一致変形によって付加される素性であり、そのためにそれらは *nondistinctness* を決定する際に考慮されないので、Michaels のようには主張できないと思われる。

次に、彼は「二番目の対案は McCawley によって示唆されて、上で議論された対案に似ている。」¹²⁾ と述べ、そして更に、「もう一つの対案を選ぶ際には、同音異義的であるが、二つの異なった語い項目が含まれているという事実も比較変形¹³⁾を阻止する。」と述べている。

即ち、(26)において、母型文の形容詞は *sad1* として分類され、埋め込まれた文の形容詞は *sad2* として分類される。

Chomsky の代案と Michaels が Chomsky の代案を採り入れたことに従って、私は比較変形に次のような条件を課することを提案したい。

(29)

SD: NPAux Copula………#NP(S)Aux Copula Adjective # Adjective

1 2 3 4 5 6 7 8

(………は *as-as*, *more-than*, *-er-than*) ⇨

SC: 1 2 3 4 8 5 (5における#も削除される) 条件: 6 = 8

(形と意味において)(意味において同じということは、例えば、*sad1* = *sad1* の場合である)もし、4が *-er* ならば屈折比較級¹⁴⁾を *-er* を8に付加することによって派生する。たとえば、(26)において、6は *sad2*¹⁵⁾であるが、一

方8は *sad1* であるので、比較変形が阻止される。

Chomsky は(3)の深層構造は “Bill is a man,”¹⁶⁾ の根底にある基底句構造標識を含まなければならないと述べており、そして “Bill is a man” という文は文法的¹⁷⁾であるので(3)は文法的であり、同じように(7)の深層構造は “Mary is a man” の根底にある基底句構造標識を含まなければならない、そしてこの文は非文法的である。¹⁸⁾ ゆえに(7)は非文法的となると私は思う。同じように(9)の深層構造は “this rock is a book” の根底にある基底句構造標識を含まなければならない、そして(11)の深層構造も “*Tristram Shandy is a poem*” の根底にある基底句構造標識を含まなければならない、これら二つの文は非文法的である¹⁹⁾ので(9)と(11)の両方も非文法的であると私は思う。

これらの観察に基づく所見に基づいて、私は次の条件を提案したいと思う。

(30) 比較文の *than*-clause の根底にある構造は *anomalous* であってはならない。

条件(30)によって、(7)、(9)、(11)の非文法性を説明することができる。

ここで私は(4)、(6)、(8)、(10)と(12)を次のように修正したい。(3)の深層構造は “Bill is a man” の根底にある基底句構造標識を含まなければならないが(4)は(1)に対応している部分 (= (31)) を含んでいると思われる。

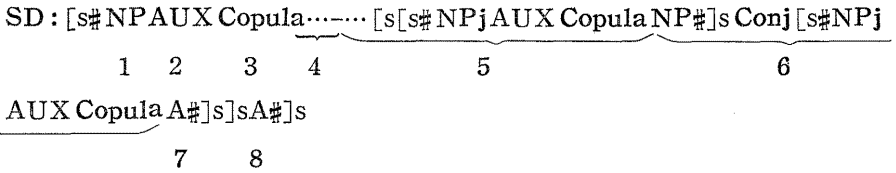
(31) *who (=a man) is more clever than Bill*

ゆえに(3)の深層構造は “Bill is clever” の根底にある基底句構造標識も含んでいて、その結果(3)の深層構造は各々 “Bill is a man” と “Bill is clever” の根底にある二つの基底句構造標識を含んでいると私には思われる。それで私は(4)を次のように(32)に修正した方がよいと思う。

(32) *John is a man (who is) more clever than Billj is a man, whoj is clever*

(32)からの(3)の派生を考える前に経験的な理由に基づいて比較変形(29)を修正したいと思う。

(33)



(ここで……は *as-as*, *more-than*, *-er-than* である)

SD: 1 2 3 4 5 6 7 8 ⇒

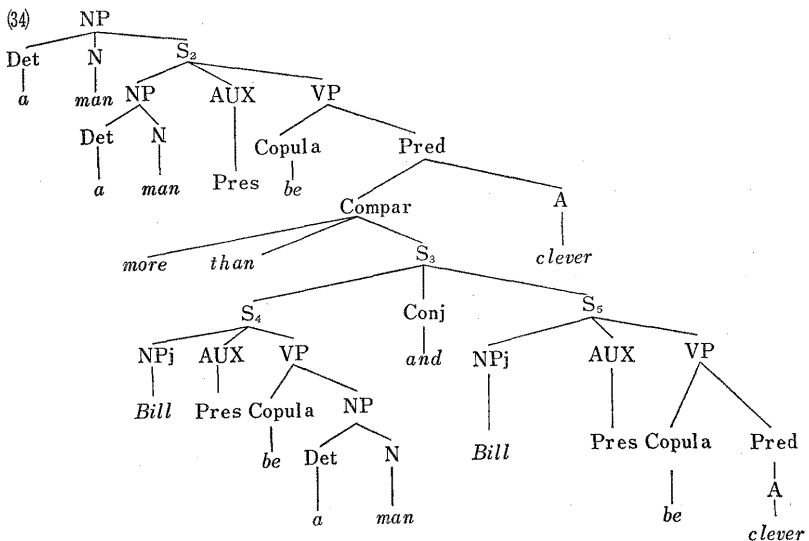
SC: 1 2 3 4 8 5 6 (すべての # も削除される)

条件: 7 = 8 (形と意味において)

(意味において等しいとは、たとえば、*sad1=sad1* であることを示す)

もし4が *-er* ならば、屈折比較級を、*-er*を8に付加することによって派生する。

次に(3)の根底にある句構造標識を考えることにする。ここでは、派生を考える時に“John is”を(34)に補って考える。



非制限的關係詞節形成変形が(34)に適用された後で、修正された比較変形

(33) が (35) を生成する。

(35) John is a man who is more clever than Billj is a man,
whoj is

次に, S_4 において関係詞節縮約変形²⁰⁾ によって “who is” を削除して母型文における “a man” との Ross の “sloppy identity”²¹⁾ のもとで “a man” を削除する。そして S_2 において “who is” を関係詞節縮約変形によって削除し, それから名詞・形容詞倒置をその出力に適用し, (36) を得る。

(36) John is a more clever man than Bill is

Copula “is” の削除は随意的である。

(11), (12) の含意については, まだ十分に研究していないので取扱わないことにする。

同じように (8), (10) と (12) を (8'), (10') と (12') に次のように修正した方がよいと思われる。

(8') I know a man (who is) more clever than Maryj is a man,
whoj is clever

(10') I have never seen a book (which is) heavier than this rockj
is a book, whichj is heavy

(12') I have never read a poem (which is) more intricatet than
Tristram Shandyj is a poem, whichj is intricate

(8'), (10') と (12') の各々は anomalous な文を含んでいるので (7), (9) と (11) は条件 (30) から非文法的である。

次に (37) から (40) までの文を考えることにする。²²⁾

(37) I have never seen a man taller than my father.

(38) I have never seen a taller man than my father.

(39) I have never seen a man taller than my mother.

(40) *I have never seen a taller man than my mother.

(37) は (24) のために文法的であり, (38) は条件 (30) のために文法的であり,

そして(39)は(24)のために文法的であり、(40)は条件(30)のために非文法的である。²³⁾

Bresnan は(37)から(40)までを別々の文として取り扱うが Chomsky は(37)と(39)を(38)と(40)の *prerumed sources* として取り扱っていることに注目すべきである。

そして次に(41)から(44)までの文を考えることにする。²⁴⁾

(41) I've never seen a man taller than John.

(42) I've never seen a taller man than John.

(43) I've never seen a man taller than Mary.

(44) *I've never seen a taller man than Mary.

板垣氏は次のように述べている。

「これまで(16) (= (42)) は(15) (= (41)) から Ta によって派生されると考えられてきたが、そうすると(18) (= (44)) の派生を阻止する妥当な理由が見つからなかった。ブレズナンの考えでゆくと、(17) (= (41)) と(18) (= (44)) は各々(19) (= (45)) と(20) (= (46)) から「同一」条件のもとで \overline{AP}_2 と \overline{NP}_2 を削除し、 \overline{S} を外置することによって派生される。そして(18) (= (44)) が非文になるのは(20) (= (46)) が意味上逸脱しているからとされる。この説明の方がより自然であり、直観とも一致していると思われる。(板垣(1974) : P. 25, P. 35)

(45) ...a man who is [\overline{AP}_1 -er [\overline{S} Mary is [\overline{AP}_2 [X, much] tall]], much] tall]

(46) ...see [\overline{NP}_1 [[*-er* [\overline{S} Mary is [\overline{NP}_2 [[X, much] tall]][a man]]], much] tall][a man]]

(41)と(43)を(42)と(44)の *sources* として取り扱っても、条件(30)によって(44)の非文法性を説明することができる。ブレズナンの説明と私の説明の両方とも(44)の非文法性を自然に説明できる。

要約すると、これまでの色々な比較文の文法性と非文法性を三つの方法で、

即ち、(13)、(17)と(17')が一つにされている説明(24)と二つの条件(25)と(30)によって説明できる。

ついでながら、(45)と(46)において、二つの \bar{s} の中で COMP が足りないのはミスプリントと思われるが、次のように直したいと思う。

(45') ...a man who is [\overline{AP}_1 -er [\bar{s} COMP [s Mary is [\overline{AP}_2 [X, much] tall]], much] tall]]

(46') ...see [\overline{NP}_1 [[-er [\bar{s} COMP [s Mary is [\overline{NP}_2 [X, much] tall] [a man]]], much] tall] [a man]]

注

*この論文は昭和50年に東北大学に提出した私の修士論文の第四章に加筆、修正をしたものである。私の質問に極めて適切なお答を与えて下さった安井稔先生と桑原輝男先生に心から感謝の意を表わしたい。

そして、大学時代に東北大学で変形文法を学ぶように示唆を与えて下さった坂井重之先生、授業及び授業以外で変形文法の論文を読む手ほどきをして下さった本山伸彦先生、シェイクスピアの英語から変形文法の研究へと導いて下さった飯田満良先輩に心から感謝の意を表わしたい。

又、御激励と適切な御助言を与えて下さった鈴木英一氏、中村捷氏、溝越彰氏、小野塚裕視氏、杉山融氏とその他の人達に心から感謝の意を表わしたい。

それから、草稿に目を通して下さった本山伸彦先生に心から感謝の意を表わしたい。

- 1) (5)を参照。
- 2) *Ibid.*, p. 234, 注36.
- 3) Cf. Bolinger (1967a), p. 20. 5. Referent Modification (下から7行目), p. 23, ll. 5-6.
- 4) 条件(25)に irrelevant であって一見反例のように見える例については、Tanaka (1975), p. 40. 参照。
- 5) Chomsky (1965), p. 145, 176, 177-184. を参照。

- 6) Cf. *ibid.*, p. 182.
 7) Cf. *ibid.*, p. 183, ll. 20-26.
 8) Chomsky (1965), p. 183, l. 9. を参照。
 9) Chomsky (1965), p. 184, ll. 2-7. を参照。
 10) しかし Chomsky (1965) の p. 183. には次のような文がある。

(27) John is heavier than this rock.

(27) に関して彼は次のように述べている。(丸がっこは私自身のそう入的なコメントのためのものである。)

「…そしてこの場合, *heavy* は母型文で素性 [post-Animate] を持ち, 埋め込まれた文で素性 [post-Inanimate] を持つ。

…しかし, 現在われわれの理解しているところでは, この素性複合の相違は素性理論の技術的な意味において二つの項目をお互いから弁別的に異なっているとさせない(即ち, これらの項目のうちの一つがある素性 [F] に関して [+F] とするしづけられもう一方が [-F] とするしづけられているというわけではない。(母型文における素性 [post-Animate] と埋め込まれた文における素性 [post-Inanimate] は一致変形によって付加される素性に属して素性理論の技術的な意味における nondistinctness を決定する際に考慮されないのでこの文を書く必要はないように思われる。そして, これらの素性は非固有的な素性であると言っただけでよいように私には思える。)

更に, 前のパラグラフの意味においてこれらの形容詞の文脈素性を非固有的であるとみなすことは自然であり, ゆえに削除は許される。…修論提出後のレポートで上の所見を次のように修正した。

“John is heavier than this rock” の *heavy* は母型文において素性 [post-Animate] を, そして埋め込まれた文において素性 [post-Inanimate] を持ち, どちらの素性も一致変形によって付加される素性であるという言い方を Chomsky はしているのであるが, そういうふうに考えるよりも, 上の二つの素性は語いそう入の位置に固有な素性であると考えた方がよいように思われる。そして, [+F], [-F] とするしづけられる素性の場合ではないのでお互い弁別的に異なっていないから削除が許されて, “John is heavier

than this rock” は文法的で容認可能になると思われる。

- 11) Michaels (1970), p. 98, l. 24-p. 100, l. 9. を参照。
- 12) Cf. *ibid.*, p. 96.
- 13) Chomsky (1965), p. 184, ll. 5-7. 参照。
- 14) 「新英文法辞典」(改訂増補版)(大塚高信編)(三省堂)の p. 1049の ‘Terminational Comparison’ 参照。
- 15) *sad1*, *sad2* については注12) 参照。
- 16) Cf. *op. cit.*, Chomsky, p. 180.
- 17) 主語名詞句と述部名詞句の性が呼応しているからである。Cf. Lehrer, A. (1974), p. 76.
- 18) 主語名詞句と述部名詞句の性が呼応していないからである。Cf. *ibid.*, p. 77.
- 19) Cf. 注17, 18.
- 20) 「関係詞節縮約変形」を循環規則とみなすことができる。
- 21) Ross (1969c), p. 268, (49), (50), 下から 11-15 行目参照。Cf. 『新言語学辞典』(改訂増補版)安井稔編(1975) “identity” の項目。
- 22) Bresnan (1973), p. 1. から引用。
- 23) 私は条件(30)の効果が Bresnan の分析のそれと一致しているのに気がついた。というのは、彼女は次のように述べているからである。
 「そうすると、私の母が男であるという(242d)における anomalous な含意の source がある。」(Bresnan (1973: 318)
 そして私は、彼女のこの陳述は比較文の Chomsky の sources の私の修正も支持すると思う。
- 24) 英語文学世界 5月号『英語学新声』「比較構文の新しい分析」(板垣完一)(1974) p. 25, 34-35. から引用。

参 考 文 献

- Bolinger, D. (1967a), "Adjectives in English: attribution and predication," *Lingua*, 18, pp. 1-34.
- Bresnan, J. (1973), "Syntax of the Comparative Clause Construction in English," *Linguistic Inquiry*, 3, pp. 275-343.
- Chomsky, N. (1965), *Aspects of the Theory of Syntax*. Cambridge, Mass.: M. I. T. Press.
- Itagaki, K. (1974), 「比較構文の新しい分析」『英語文学世界』Vol. 9, No. 2, pp. 34-35, 25.
- Lehrer, A. (1974), *Semantic Fields and Lexical Structure*. North-Holland.
- Michaels, D. (1970), "Two problems in the description of adjectives." *Language Learning* 20. 89-101.
- Ōtsuka, T. (大塚高信) (編) (1970), 『新英文法辞典』改訂増補版。東京：三省堂。
- Ross, J. R. (1969c), "Guess who?" in Binnick *et al.* (eds.) (1969), pp. 252-86.
- Tanaka, A. (1975). Some Studies of Prenominal Adjectives in English." M. A. Thesis. Tōhoku University.
- Yasui, M. (安井稔) (訳) (1970), 『文法理論の諸相』ノーム・チョムスキー著 東京：研究社。
- _____ (編) (1975), 『新言語学辞典』(改訂増補版)。東京：研究社。